

公益社団法人 私立大学情報教育協会
サイバーキャンパスコンソーシアム
第4回 生物学グループ運営委員会 議事概要

I. 日 時 平成24年9月26日(水) 11:00~14:00
場 所 公益社団法人 私立大学情報教育協会事務局会議室

II. 出席者 伊藤委員、佐野委員 (事務局 井端、森下、平田)

I. 検討事項

前回作成した生物学の学士力の背景について全面的な見直しを行い、さらに到達目標の解説をまとめた。その他、学士力や教育改善モデルに挿入する図について確認を行った。

1. 生物学の学士力の背景について

- (1) 冒頭の生物学の教育の目的の前に、生物に関わる社会の問題点として、利益・利便性追求により生物のもつ精神的価値、存在価値がないがしろにされていることや、あらゆる生物の存在に意義があることを認め、共存していく必要があることを掲げることにした。
- (2) 次に、現状での生物学教育の問題点として、前回委員会で削除した部分を戻して、各論に関する知識の修得に偏りがちなこと、他の分野との連携が不十分であることを入れることにした。
- (3) 前記(1)(2)を背景に、これからの生物学教育では、他分野との関連付けの重要性を理解でき、観察・実験を通じた考察力を社会生活で利用でき、社会の諸問題に生物学的価値の観点から対処できる人材育成が重要であることを示すことにした。
- (4) 最後に、学士力の到達目標を提示することにし、到達目標3については「生物学の視点から生物や環境に関連する問題について考えることができる」と簡潔にまとめた。

2. 学士力の到達目標の解説について

- (1) 到達目標1では、基礎知識の理解を通じて、現在社会の問題と生物学との関わり合いを理解する力や、生物学的視点から判断する力を持たせることの重要性を明示した。
- (2) 到達目標2では、生物の観察や実験による背景の理解、データの処理方法、解析力を身につけることにより、自然科学的で客観的な論理性を修得させることの必要性を明示した。
- (3) 到達目標3では、生物と環境に関連する取り決めや生命倫理等を理解し、諸分野との関連づけの重要性を理解させることで、生物学の視点から生物・環境の問題を考察できる力を持たせることが必要であるとした。

3. モデル挿入の図について

他分野との相関図は学士力の解説の後に挿入することにし、図中にある諸分野を再度整理することにした。また、モデル1の授業の仕組みのイメージ図は、教員間連携ネットワークとして枠線ですべての仕組みを囲むよう追加することにした。

4. 今後のスケジュール

以降の委員会は開催せず、図の修正版を担当委員が後日送付し、モデルとして完成させることを確認した。